



2月号

横浜市立中田小学校

学校だより

第446号



中 田 小

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

平成30年1月31日

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



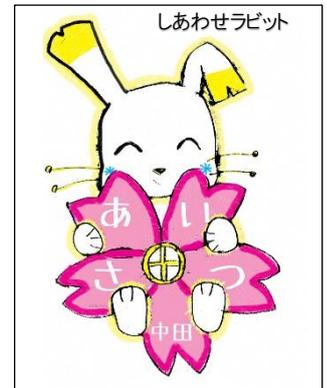
笑顔はじけるキラキラあいさつ

副校長 今野 敏晴

朝、正門や南門で登校を見守っていると「おはようございます」と気持ちのよいあいさつをしてくれる児童が増えてきているのを実感します。もちろん個人差もありますし、場合によってはあいさつができていないときもありますが、多くの児童があいさつを心がけているのが伝わってきます。

昨年度の学校評価アンケートからあいさつが十分にできていないと児童・職員がともに感じていることが分かりました。「児童にこちらからあいさつをすれば返ってくるが、まだ自分から進んであいさつできる児童が少ない。職員からも呼びかけたり、児童会で意識を高めたりするなど具体的な手立てが必要である」との改善の視点から今年度は、自分から進んであいさつを行い気持ちよく一日を送れるよう次のような取組を行いました。

- 代表委員会で取り上げ、年間テーマやキャラクターを決め、運営委員も進んで行う。年間テーマ「笑顔はじけるキラキラあいさつ」キャラクター「しあわせラビット」
- 学校保健委員会で取り上げ、クラスで具体的な取組を考えて、10月に中間発表、2月に年間の振り返りを行う。
- 朝会であいさつに関する校長講話を行う。
- 門当番の先生とともに当番クラスが正門と南門で登校する子どもたちに向けて朝のあいさつ運動を行いあいさつすることの大切さや気持ちよさを実感させる。また、当番に当たっていた学年が朝会でやってみた感想を発表する。



その結果、今年度の学校評価アンケートでは、「あいさつができていない」という項目で、できていると回答する割合が昨年に比べて向上しました。児童「平成28年 進んでしている 26.8%・している 42.5%」→「平成29年 進んでしている 38.8%・している 41.5%」、教職員「平成28年 とてもそう思う 23.5%・そう思う 47.1%」→「平成29年 とてもそう思う 25.0%・そう思う 62.5%」うれしい結果ですが、今年度だけにとどまらず、持続可能な取組としていきたいと考えています。次の目標は、学校でも家庭でも地域でもあいさつができるよう、また、あいさつからの言葉のキャッチボールが続くよう声かけしていきます。

子ども達の社会では、「社会体育では元気よくあいさつをするが、学校ではしない」「学校ではするが家庭ではやらない」ということが起こります。それぞれの小社会の中での規範意識、善い・悪いの規準や優先順位が整理されないまま、子どもたちの心の中に同時に成立するのだそうです。あいさつをすることは友好的人間関係をつくるためにどんな社会でも大切であると垣根を取り外していく必要があります。

あいさつは、コミュニケーションの入り口です。英語では、Good morning How are you? Fine thank you? It is coldと言葉のキャッチボールが繋がっていきます。日本語ではその習慣がありません。日本では、自分のことをあまり語らないのが美德であり、相手の考えを察することで成り立ってきた社会ですが、これからの国際社会で生きていくために言葉のキャッチボールができる力を伸ばしていかなくてはなりません。

あいさつをするとき、人は無意識のうちに笑顔を作ります。暗い顔であいさつをする人はあまりいません。「おはようございます。」とあいさつしている人の顔はほとんどが笑顔です。心と身体は繋がっています。あいさつをきっかけに笑顔が増えれば、気持ちもつられて上向いてきます。あいさつから始まる言葉のキャッチボールで、温かい人間関係を築くこともできます。また、最近では、防犯の役わりも担います。あいさつは犯罪を防止し、人と人との絆を深めます。あいさつは、学校、家庭、地域の仲間として「あなたの存在を尊重し認めている」という姿勢を伝えます。「協力していこうと思える安心感や信頼感」をつくりだしていくためのツールでもあるのです。今後も子どもたちのはじける笑顔のためそれぞれが連携し、学校でも家庭でも地域でもあいさつの輪が広がるようご理解とご協力をお願いいたします。